



(公社)日本歯科先端技術研究所 近畿・北陸地区 2024年度 学術講演会のご案内



■大会長

日本歯科先端技術研究所
副会長／近畿・北陸地区会長

森本 恭司



■学術委員長

日本歯科先端技術研究所
常任理事

下野 純司



■実行委員長

日本歯科先端技術研究所
近畿・北陸地区会員

田中 学(大阪)

人生100年時代における歯の保存と欠損補綴の意義

エビデンスと経験に基づく抜歯基準と欠損補綴の有用性を再考する



小松 啓之

日本口腔インプラント学会／日本顎咬合学会／日本臨床歯周病学会／
KIDS／カムログインプラントインストラクター／
スウェーデンマルティナインプラントインストラクター

略歴

1999年 岩手医科大学歯学部卒業
2006年 大阪市阿倍野区 こまつ歯科医院 開業

日本が世界有数の長寿国と言われて久しい。2023年人口動態統計では日本人の平均寿命は男性89歳女性91歳と記載されている。それと引き換えに歯科医師は診療室で口腔内を見ていると残念ながら歯の寿命が延びていると感じることはなかろう。もちろん就学児童の口腔内は以前よりカリエスが少なく、親世代の口腔内環境への意識の高さを感じるが、発育に関わる骨格、歯列の乱れがその後の永久歯列完成に大きな悪影響を与える事を危惧している。そして補綴歯においてはどうか？C1程度の充填から始まり修復治療を繰り返し、いずれ失活歯となっていく。実際の診療室でも、長い期間かけようやく動的治療が終了し、メンテナンスに移行していく際に歯根破折になり抜歯を余儀なくされる事もある。8020推進財団による「永久歯の抜歯原因調査(2018年)」では歯周病(37%)、う蝕(29%)、に次いで歯根破折(17%)と報告されている。またメンテナンス期間中の歯の喪失原因では歯根破折が62パーセントに達すると報告するデータもある。人生100年時代を健康で自立した生活を送る為に栄養期間としての口腔内環境を改めて再確認し、欠損補綴の観点から一口腔単位の治療を振り返り、長期的に安定した状態とはどのような状態を差し示すのかご提案したいと思います。

歯の保存の可能性を再考し、
口の健康を維持する為の治療の予知性を見極める



小林 実

日本臨床歯科学会大阪支部 相談役／日本臨床歯科学会 指導医／
大阪SJDベテックコースコースディレクター／大阪SJDエンドコース、マイクロエンドコース講師／
日本審美歯科協会 会員／日本歯内療法学会 専門医／日本顕微鏡歯科学会 評議員／
米国内療法学会 准会員

略歴

1994年 大阪歯科大学 卒業
1995年 京都 山田歯科 勤務
1996年 新大阪 (医)ミナミ歯科クリニック 勤務
2000年 東大阪 (医)りょうき歯科クリニック 勤務
2005年 大阪市北区 こばやし歯科クリニック 開業

昨今、人生100年時代に、口腔の健康を守るために何が必要かといったテーマで多くの議論がされる機会が多くなってきたと思います。保存領域である歯内療法において、今までは盲目的に、手探り、手指感覚で治療していた時代から、マイクロスコープ、CBCT、ニッケルチタンファイルの登場で、ある意味で可視化が進み、さらにMTAの登場で根尖周囲組織の再生療法、生活歯髄保存法といった治療方法が確立され、歯髄を扱う治療または、無髄歯の治療の予知性が飛躍的に向上してきていると感じます。しかしながら永久歯を90年近く残すことは、さまざまな条件が揃わないと難しいとも思います。その患者さんのQOLを維持するために時には天然歯に代ってインプラントを活用することでその目的を達することも多いと考えます。人生100年時代で終活時に口腔内の健康を維持するために、その歯の予知性を見極め、必要であればいつインプラントに移行していくべきかという診断も、今の時代、必要になってきていると感じます。今回、欠損補綴に移行する際に対処する準備として歯の予知性をどう見極めるかというテーマを議論させていただきたいと思います。

■日時 令和7年 2月16日(日)

学術講演会 9:00～12:30

■会場 ホテルニューオータニ大阪
2F 鳳凰の間

総括 12:30～13:00

大阪市中央区城見 1-4-1 TEL: 06-6941-1111

■受講料 会員無料 / 非会員 7,000 円 (招待者無料)

お申込・お問い合わせ先 (公社)日本歯科先端技術研究所 近畿・北陸地区 TEL: 072-223-8776 FAX: 072-222-8447(担当) 村田

(公社)日本歯科先端技術研究所 近畿・北陸地区 2024年度 学術講演会 申込書

FAX: 072-222-8447

氏名:	勤務先:	
住所:		
TEL:	FAX:	e-mail: